

# 南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 1 週 2025 年 12 月 29 日 ~ 2026 年 1 月 4 日

## 今週のコメント

南丹保健所管内、京都府ともにインフルエンザ警報レベルが解除されました。

2026 年第 1 週の報告です。(前週は、2025 年第 52 週の数値を示しています。)

第 1 週は年末年始の休診等もあり報告数は大幅に減少しています。

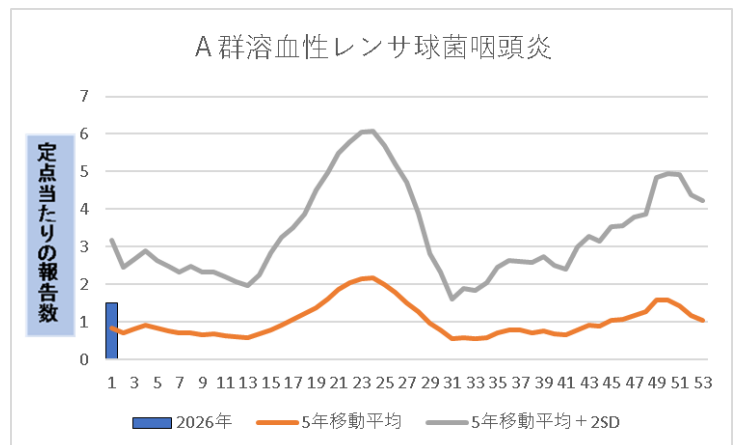
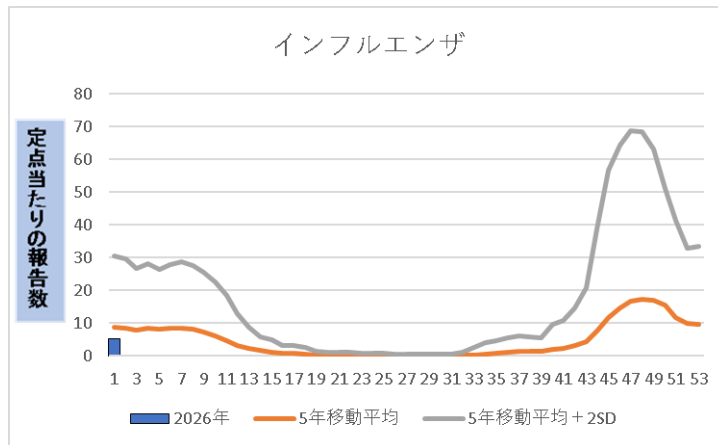
○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 5.25(前週 22.75)、京都府 9.31(前週 26.08)となっています。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数は南丹 1.5(前週 4.50)、京都府 0.5(前週 3.97)となっています。

○咽頭結膜炎の定点あたり報告数は、南丹 0.5(前週 1.00)、京都府 0.17(前週 0.77)となっています。

○水痘の定点あたり報告数は、南丹 0.5(前週 0.00)、京都府 0.31(前週 0.64)となっています。

## 今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

## A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、A 群レンサ球菌による上気道の感染症です。主な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。学童期の小児に最も多いとされ、主に冬季および春から初夏にかけて流行が見られ、学校等での集団感染も多い感染症です。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の潜伏期間は、2～5 日程度であり、発熱、咽頭痛、倦怠感、嘔吐などの症状が見られます。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行することがあります。さらに、劇症型溶血性レンサ球菌という重篤な病態を生じることもあります。

発症時は抗菌薬での治療を行います。また、喉の痛みがひどい場合は柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

予防には、有効なワクチンがないため、「手洗い」「うがい」「マスク」をいった基本的な感染予防対策をしっかり行いましょう。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎について詳しくは、[こちら\(国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト\)](#)をご確認ください。

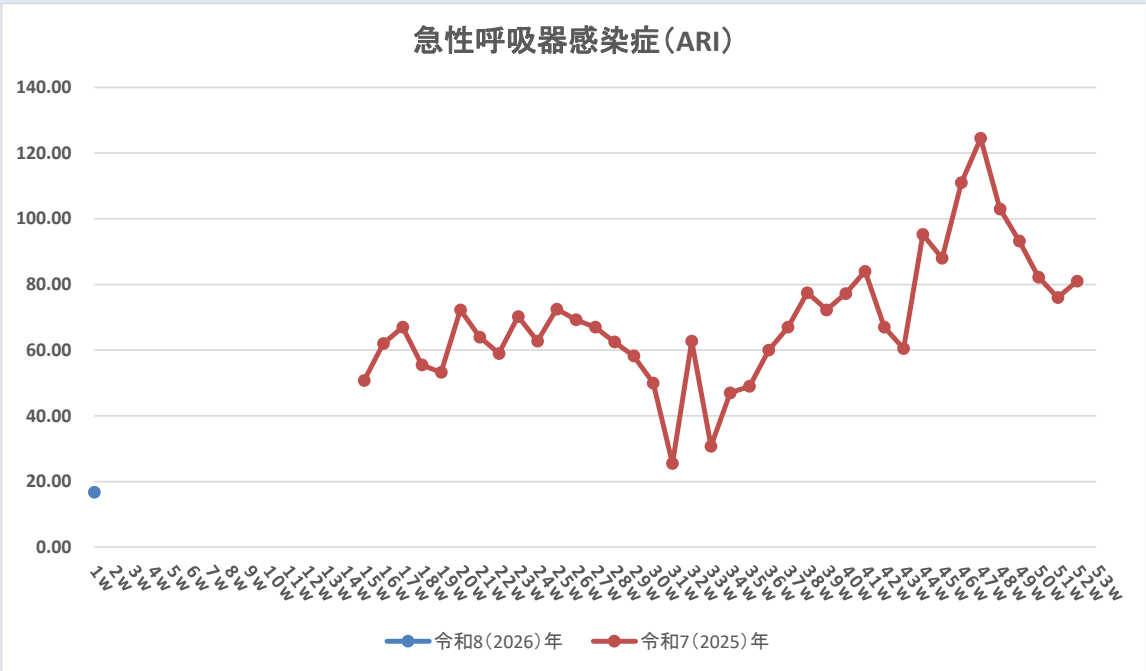
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.1w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ	30	10	10(流行1)	5.25	↘	22.75
新型コロナウイルス感染症				0.25	→	0.25
RSウイルス感染症				0.00	↘	1.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	↘	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.50	↘	4.50
感染性胃腸炎	20	12		0.00	↘	3.00
水痘	2	1	1	0.50	↗	0.00
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	1.50
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 1 週報告数は 67 件(定点当たりの報告数 16.75)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)